

1 教育目標（目指す児童像含む）**（1）基本目標**

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など） 南の子 なかよく かしこく たくましく

- なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)
- かしこく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)
- たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己肯定感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

小学校は、子供の夢を育てていく場所であり、多様な経験を通して学んでいく場所である。個の成長を認めることを基本とし、教育活動の充実・改善を通して、一人一人が自分の成長を実感し自己肯定感をもてる学校づくりを進めていく。そのためには、教職員が互いに教師力を磨き合い、それぞれの専門性や個性を発揮しながら、明るく笑顔で教育活動を推進していくとともに、地域・保護者・児童・教職員が心一つにして、「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」を目指して努力していく。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダード、令和5年度指導の重点「成長し続けるための基盤を培う」、「未来を生き抜く力を養う」を踏まえ、児童・教員・保護者・地域が協力しながらそれぞれの役割を果たす学校経営に努める。

- （1）○児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに努める。
- （2）○基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- （3）教育活動全体を通して、計画的・系統的に人権を尊重する心、人を思いやる心、規範意識などを育むとともに、折れない心や、やり抜く心など心のたくましさの涵養に努める。
- （4）生涯にわたって自他の生命を尊重し健康で安全な生活を送れるよう、自ら進んで体力づくりをしようとする態度や健康管理する能力、望ましい生活習慣、危険を予測し回避する行動を身に付ける力の育成に努める。
- （5）情報化の急激な時代の変化に向き合い生き抜くための資質・能力を身に付けることができるように情報活用能力の育成に努める。
- （6）教職員が同僚性と協働性、職種の利点を発揮したチーム力の向上を通して、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- （7）教育者としての使命感を自覚し、研究・研修、日常の相互研鑽等を通して、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- （8）教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- （9）地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- （10）地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・よさを生かした教育活動を推進する。

【雀宮地域学校園教育ビジョン】一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- （1）児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や教師と児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化を図れる教育課程の編成に努める。
- （2）言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印**（1）学校運営**

- 児童一人一人がよさを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感を感じる教育活動の展開
- 児童が、自己の成長を実感できる教育活動の展開
- 認め励ます教育の一層の推進
 - ・道徳教育・人権教育の充実を通じた、豊かな人間性と他者を思いやる力の育成と折れない心ややり抜く心などのたくましさの涵養
 - ・地域と目標を共有し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開

・業務を効率化し時間的な余裕の中で質の高い教育活動を展開するための環境の整備と教職員の意識改革
(2) 学習指導
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進（考える力の育成）
○・基礎学力の向上に向けた取組の充実
・ICTを効果的に活用した授業展開の工夫（1人1台端末、デジタル教科書等の活用）
・言語能力、情報活用能力やSDGsに係る現代的な諸課題に対応する力を育てる問題解決的学習や教科等横断的指導の充実
・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団づくり
・学校行事や特別活動などで自分の変容や成長を実感できる学習活動の工夫（キャリア教育の充実）
・図書、ICTの活用能力を向上させる指導の充実
・家庭での読書習慣の形成
(3) 児童 生徒指導
○・ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする態度の育成
○・相手の気持ちを考えて行動する実践力（あいさつ・場に応じた言葉遣い等）の育成
・いじめ・不登校を生まない指導と居がいのある学級づくり
・家庭での生活を振り返り、よい生活習慣を身に付けようとする態度と情報モラルの育成
(4) 健康（保健安全・食育）・体力
○・健康に関する知識を正しく理解し、健康で安全な生活を営む力を育むとともに、進んで運動に取り組む児童の育成
○・自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができる児童の育成
・危険を予測し、自らの命を守るための行動力の育成
・自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性 A拡充 B継続 C縮小・廃止」

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1○児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、学習課題を解決するため、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した南小学習モデル「問い」→「見通し」→「自力解決」→「共有」→「まとめ」→「振り返り」を確実に実践する。 ② 問いを設定する際は、課題解決に向けて、必要な情報を集め整理したり、他者と協働しながら考えたりし、児童の思考力の育成を図る。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.3%で指標を上回ったが、現行学習指導要領の趣旨を達成するため、引き続き、研究を続ける必要がある。 【次年度の方針】 ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、全職員で「自ら考え、協働し、学びを深められる児童の育成」を図る授業実践を行い成果につながった。次年度はさらに、児童の学びにスポットを当てて研究を継続していく。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2○児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。→児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げて、互いに称賛できるようにしている。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 91.0%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・担任はもちろんのこと、全職員が児童の良い所や望ましい言動が見られたときは、称賛の言葉かけをすることで、児童の自己肯定感を高めていく。
	A3○児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。→児童の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 82.7%で指標を上回ったが、教職員は 75.0%と評価が乖離しているため、理由を分析し、指導の改善が望まれる。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートで児童に目標を持たるとともに、各行事において、取組を振り返る機会を教師側が設定し、児童には自己の成長を実感させ、教師は変容を見取り、今後の指導に生かしていく。

1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。→児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 健康に関する知識を正しく理解し、進んで運動に取り組んだり、自らの食生活を振り返ったりし、望ましい生活習慣を図る態度を育成する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 90.0%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・交通安全教室や避難訓練では、児童が危険を予測し、自らの命を守る行動力が育成できるように計画し、実施する。 ・引き続き、基本的な生活習慣を身に付けられるように指導することで、児童が健康で安全な生活を営む力を育てていく。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。→児童の肯定的回答 85%以上	① いきいき班による異学年交流活動に積極的に取り組み、児童主体の活動を展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。 ② 児童一人一人が自分の良さを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに取り組む。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 84.1%で指標をやや下回った。教職員は 95.0%と回答しているため、児童が自分のよさや成長を実感することができる指導を引き続き模索していく必要がある。 【次年度の方針】 ・成長を実感できる機会「振り返り」の場面を意図的に設けていく。普段から「よくできたね」、「できるようになったね」というプラスの言葉を児童に掛けていく。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② ALTと連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 83.0%で指標を上回ったが、昨年度より 6.7%下がった。 【次年度の方針】 ・外国語の時間に限らず、休み時間等もALTと英語による挨拶や日常会話を通して、コミュニケーションの達成度を高めていく。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っている。→児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮における人・自然・社会などについて様々な場面で意図的に触れさせ、興味・関心がもてる工夫をする。 ② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 77.5%で、昨年度より、4.9%下がり、指標も下回った。 【次年度の方針】 ・社会科や総合的な学習での宇都宮学の充実に加え、給食時の地産地消の紹介なども活用しながら、宇都宮のよさに触れる機会を意図的・計画的に行う。
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。→教職員の肯定的回答 85%以上	① デジタル機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。 ② デジタル機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 87.5%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続しつつ、児童が学習において、デジタル機器や図書等を効果的に活用する場を模索していく。
2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員が持続可能な社会やSDGsの考え方について理解を深め、図書資料、映像資料の活用し、授業等で話題に取り上げ児童に関心を高めさせる。 ② SDGsの内容を掲示し、「持続可能な社会」についての啓発を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 84.4%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・図書資料や映像資料の更なる充実を図り、SDGsについて児童の関心を高めるとともに、自分たちができることから行動に移していく実践態度を養っていく。

3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童に対して、適切な支援をしている。→教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 90.0%で指標を上回ったが、昨年度より 10%下がった。 【次年度の方針】 ・児童の個別の支援計画に合理的配慮を明記し、すべての教員が情報を共有し連携して個別最適な学びが図れるようにしていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。→保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 80.0%で指標を下回ったが、昨年度より、3.4%上回った。 【次年度の方針】 ・いじめゼロ集会やQ-Uや教育相談を踏まえてのいじめをなくす活動への学級での取り組みを適宜学年だよりで家庭にも周知と協力を呼び掛けていく。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対処を図る。 ② 不登校とまらないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 94.1%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・欠席が続いた児童に対して必要に応じて一人一台端末を活用して学校の情報を発信し、学校とのつながりを感じられるようにしていく。また、様々な教育活動において一人一人が活躍できる場を意図的に設定し、児童同士が認め励まし合える学級経営を行っていく。
3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13○学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 教職員は児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題を解決に努めたりして、児童明るくいいきき学校生活を送れるようにしている。→教職員・地域の肯定的回答 85%以上	① 児童が「明るく楽しい生き生きとした学校生活」を送れるよう日頃から認め励ますなどの支援や援助をし、教師と児童との間に望ましい親和的な人間関係を育てる。 ② 教育相談や日常の傾聴を通して児童の悩みに寄り添い、問題早期の発見・早期対応及び心のケアに努める。	【達成状況】 ・教職員・地域住民とも肯定的回答は 100%で指標を大きく上回った。児童も昨年度より 6.9%、保護者は 0.3%と上昇していることから、継続して取り組んでいきたい。 【次年度の方針】 ・今後も児童一人一人がよさを発揮し、活躍できる場を設定することで、自己の成長を実感できる居がいのある学校づくりを推進する。
3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。→児童の肯定的回答 85%以上	① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。 ② ICT（一人一台端末等）の積極的な活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導（習熟度別学習）等で「楽しくわかる授業」を推進していく。 ③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランに基づき授業を展開する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 95.5%で指標を大きく上回り、学力向上の成果が出ているため、継続して研究を進めていく。 【次年度の方針】 ・今後も児童に学びの実感と次回の授業への意欲を生む「振り返り」という南小授業モデルによる学習のプロセスを丁寧に実践していく。また、一人一台端末を個別、協働の学びの中で、効果的に活用する研究を継続する。さらに、特に教科においては、3年生以上の学年で少人数および習熟度別学習工夫を計画的に行い、きめ細かな指導を通して学力の向上を図っていく。
4- (1) 教職員の資質・能力の向上			

4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内の様々な職種の特性を生かして協力し、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。 ② それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.0%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・職員の専門性を生かした校内研修を実施し、業務の実効性を高めるとともに、教職員間での情報共有の充実とチーム体制の再構築を図っていく。
4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。→教職員の肯定的回答 80%以上	① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、業務の効率化を意識した計画とする。 ② ミライムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 85.0%で指標を上回ったが、昨年度より、15%と大きく下がっているため、働き方改革の推進にさらに努める必要がある。 【次年度の方針】 ・数値の低下は、コロナで自粛していた行事等の再開が要因と考えられる。児童の教育活動充実を念頭に置き、全職員でアイデアを出し、業務の効率化を図っていく。
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 〇学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」→児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園であいさつ運動を定期的実施することで中学生との交流を深める。 ② 地域学校園内での小中乗り入れ授業や分科会を通して小・中教職員間の勉強会や情報交換を積極的に実施していく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 82.9%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・宮つ子チャレンジとあいさつ運動での中学生との交流活動や小中乗り入れ授業を継続し、小中一貫教育・地域学校園での取り組みを充実させる。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① PTA・安全パトロール隊（自治会）・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。 ② 読み聞かせボランティアをはじめ、地域ボランティア活動を積極的に推進し、児童の教育活動の充実に努める。 ③ 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.0%で目標指標は達成したが、児童、教職員、地域ともに昨年度より下がっているため、改善策を講じる必要がある。 【次年度の方針】 ・家庭や地域には、ボランティアの協力依頼とともに、活動の様子を HP 等や校内掲示で積極的に周知していく。企業等とは、オンラインの出前授業等で積極的に交流を図っていく。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。→保護者・地域住民 肯定的回答 80%以上	① 施設の設備点検を実施し、必要のある場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。 ② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。	B 【達成状況】 ・保護者 86.4%・地域住民 91.7%とともに肯定的回答は指標を上回ったが、それぞれ昨年度より値が下がっているため、改善策を講じる必要がある。 【次年度の方針】 ・安全点検で課題となったことを、地域にも共有し、協力依頼を要請するとともに、学校で対応が困難なことは自治体に速やかに要望し修繕を図る。また、施設の利用者に安心していただくためにも、安全対策を施したことを適宜、HP 等で発信していく。

6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員は、授業（授業準備を含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。 →教職員の肯定的回答 80%以上	① デジタル機器を活用した分かる授業を展開するため、設備の充実を図る。 ② 1人1台端末でclassroomやスマイルドリルを使った効果的な授業づくりの推進に努める。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で全職員一丸となって取り組んできたため、指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・今後も積極的に授業や業務にデジタルを活用し、分かる授業の展開や仕事の効率化を図っていく。また、ワークシート、会議資料、作成文章についてもデジタルでの共有化を図っていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。→保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童・地域・保護者が協力し合い、朝のあいさつ運動を定期的（6月・10月）に行う。また、代表委員を中心とした児童有志によるあいさつ運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特別活動の時間で礼儀の授業を行い、児童の意識を高める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 92.7%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も各種行事や道徳の時間であいさつの大切さについて指導していく。また、代表委員によるあいさつの励行動画の放映やあいさつ名人の表彰を引き続き実施していく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 「よい子の一日（きまり）」「遊びのきまり」や生活目標の周知徹底を図ることで、規範意識を高め、けじめのある行動がとれるようにする。 ② 人権教育や道徳の授業、運動会・校外学習等の学校行事の活動を通して、集団の一員としての自覚を高めていく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.4%で指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・生活目標の周知を徹底し、児童の規範意識を高めるとともに、道徳教育・人権教育の授業、運動会・校外学習などの学校行事において、マナーについて振り返る機会を設け、模範となる行動を称賛する。
	B3 児童は、給食時のマナーを意識し、守るよう努めている。 【数値指標】 児童は、給食時のマナーをしっかりと守っている。→児童の肯定的回答 85%以上	① 食事前のマナーとして、手洗い、ランチマットの準備、静かに配膳を待つなどの習慣を身に付けさせる。 ② 「いただきます。」「ごちそうさま。」のあいさつを感謝の気持ちを持って行う意識を高める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は 93.8%で指標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も引き続き、給食だよりでの食育指導、給食時での教職員や係児童及び給食委員会や学校栄養士による校内放送での声かけを充実していく。
	B4 児童は、本に親しみもち、進んで読書している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、児童が本に親しめるよう工夫している。」→肯定的回答 80%以上	① いろいろな分類の本を読めるように読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的に学習に必要な本を収集し情報センターとしての機能を強化する。	【達成状況】 ・本校の読書活動推進の成果からすべてにおいて肯定的回答は指標を上回った。特に、昨年度より児童は 10.4%、保護者は 32%と大きく上回った。 【次年度の方針】 ・今年度の取り組みを継続し、デジタル図書室の活用とICTを利用した本の紹介を引き続き行うとともに、校内の読書推進の取り組みについて保護者への情報発信を行っていく。

〔総合的な評価〕 ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

- A2「思いやりの心」については、すべてにおいて90%を超えているが、さらに伸ばせる余地があるため、児童が友達や地域の方に対し、相手の気持ちや立場を推し量った望ましい言動が見られたときは、積極的に称賛するなど、思いやりや親切的な行為の意義を実感できる機会を設けていきたい。
- A3「目標に向かって粘り強く」では、児童に学校生活において目標を立ててよりよい自己実現への達成の見通しを持たせ、さらにその取組を振り返る機会を設けることで、自己の成長を実感させ、勇気をもって困難を乗り越え、努力することができるように教師は支援していきたい。
- A5「自分のよさ・協力」では、普段から長所を伸ばしていけるよう「よくできたね」、「できるようになったね」というプラスの言葉を児童に掛けていくとともに、友達の良さにも目を向けさせ、自分とは異なる意見や立場を受け止め、尊重し、協力していく場を設定していく必要がある。
 - ・ A11「いじめの指導」では、教職員は児童に向き合い真摯に取り組んでいるため、児童の評価も向上しているため、取組を継続しつつ、今後はより保護者に対し、取組についての周知や啓発を行うことで、さらに理解と協力を得ていきたいと考える。
 - ・ A19「利用する人の安全配慮」については、安全点検で課題となったことを、地域にも共有し、協力依頼を要請するとともに、学校で対応が困難なことは自治体に速やかに要望し修繕を図っていきたい。また、施設の利用者に安心していただくためにも、安全対策を施したことを適宜、HP等で発信していくことも検討したい。
- B1「あいさつ」、B2「きまりやマナー」、B3「給食時のマナー」、B4「本に親しむ」については学校独自の評価項目で、比較的高く評価されているが、今年度の取組を継続するだけでなく、成果の要因を分析し、改善すべき点も吟味していく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・ B1「あいさつ」については、児童は地域の中においても、とても気持ちのよいあいさつができています。B2「きまりやマナー」においても、安全ボランティアとして、登下校時の見守りの際に安全上の声掛けをすると、素直に受け入れ、交通マナーを守ろうとする。また、A11「いじめの指導」でも、児童の様子を見るとたいへん仲がよい印象であり、教職員の指導の成果が出ていると感じる。今後も学校での取り組みを継続するとよい。1点、もう少し、休み時間等で教職員と児童がともに遊ぶことで、児童理解につながり、教職員のA2「思いやりの心」やA5「自分のよさ・協力」の項目が改善し、さらに、児童の肯定的回答も上がるであろう。
- ・ A2「思いやりの心」において、児童を褒める機会を多くもつことも大事だが、合わせて児童が短所と思っているところをプラスに思えるように、例えば、消極的は思慮深い、慎重であるなど、良さでもあると気づかせるような指導を合わせて行くと指導していくとよい。
- ・ A3「児童が夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」については、とても大切な項目である。児童と教職員の思いが重なるよう指導していただきたい。
- ・ A7「児童は宇都宮の良さを知っている。」については、中学年の施設巡りの際にLRTを活用したり、地域行事に児童が積極的に参加できるように工夫したりすることで、郷土愛を育て、高めていくとよい。
- ・ A11「いじめ対策」においては、思いやりの心を育むことで、しない、させない雰囲気を作るとよい。
- ・ A12「不登校対策」においては、子どもを孤立させずに、級友・教育機関等に繋げていくとともに、子ども一人一人の特性に合った指導を引き続きお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

- ・ 今年度は、児童の学力を高めるため、基礎学力の徹底、思考力の育成、コミュニケーション力の向上を目標に全職員で授業実践及び授業研究を行い教師の授業力を向上させてきた。次年度は、児童の学びに着目し、主体的に学習に取り組む課題設定や自らの成長が認識できる振り返りの工夫などを行っていきたい。
- 笑顔いっぱいの学校になるよう、思いやりの心を育む場や級友または異学年の児童同士で協力し合う場を設定し、居がいのある充実した学校生活を送れるように取り組んでいく。さらに、今後もいじめ防止対策の徹底や児童の思いに寄り添う一人一人を大切にしたい指導を継続しつつ、家庭や地域にむけて本校での取組の周知に努め、理解と協力を得られやすくしていく。
- 児童は、相手を尊重した気持ちのよい挨拶ができつつある。挨拶は児童が明るく元気に過ごすことができるための大切な礼儀であるため、今後も代表委員によるあいさつ運動の推進やあいさつ名人の表彰など指導の工夫に取り組み、挨拶いっぱいの学校を目指していく。
- 児童が夢や目標に向かって粘り強く取り組むことができるために、学校行事等では目標の設定と合わせて、改善点だけでなく、結果に至る取組の過程での努力点や工夫点に目を向けさせる。その過程で習得した自分の良さを伸ばそうとするような振り返りを実施することで児童の意欲を高め、やる気あふれる学校づくりの実現を目指していく。

